

【報告】

令和 7 年度八幡浜保健所運営協議会の結果について

R 7. 1 2. 2 3

八幡浜保健所企画課

1 会議の名称

令和 7 年度八幡浜保健所運営協議会

2 開催日時

令和 7 年 1 月 11 日 (木) 14 時から 15 時 30 分

3 開催場所

南予地方局八幡浜支局 7 階大会議室 (八幡浜市北浜 1 丁目 3-37)

4 出席者

委員 13 名 (代理 4 名、欠席 2 名)、随行 6 名、事務局 19 名

傍聴者 なし 報道機関 なし

5 協議事項

(1) 八幡浜保健所管内の概況について

(2) 保健所主要事業について

・企画課：企画課の所管事業及び医療対策の現状について

・健康増進課：健康増進課の所管事業について

・生活衛生課：生活衛生課の所管事業について

・環境保全課：環境保全課の所管事業について

(3) 意見交換

6 協議内容 (全部公開)

事務局から説明、その後質疑応答及び意見交換を行った。(別添議事録のとおり)

(協議会事務局)

八幡浜保健所 企画課

企画情報グループ

電 話 0894-22-4111 (内線 276)

F A X 0894-22-0631

令和7年度八幡浜保健所運営協議会 質疑応答及び意見交換

(1) 八幡浜保健所管内の概況について

(2) 保健所主要事業について

①企画課：企画課の所管事業及び医療対策の現状について

②健康増進課：健康増進課の所管事業について

③生活衛生課：生活衛生課の所管事業について

④環境保全課：環境保全課の所管事業について

(3) 意見交換

発言者	発言要旨
委 員 (質 疑)	自殺の現状について、全国的および管内で減少傾向にある一方で、中高生に自殺率がかなり増えている。原因は何か。
保 健 所 (回 答)	<p>国の研究機関のコメントを踏まえて回答する。</p> <p>市販薬の乱用やオーバードーズが若者の間で増加傾向にある。特に 10 代の自殺の一因として薬物依存が挙げられ、市販の風邪薬、鎮痛剤、咳止めなどが手軽に購入可能であることが関連していると推測される。</p> <p>また、子どもの自殺には特徴があり、他の世代に比べ自殺に至る期間が短い。大人と比較して些細なストレスで死を考える傾向があり、小学 4 年生までは家庭環境、高校生になると学校での行き詰まりがきっかけとなりやすい。特に中学生までは死生観が未熟であり、死後の生まれ変わりや自殺による人生のリセットといった考えが、自殺を選ぶ理由の一つと考えられている。</p>
委 員 (質 疑)	<p>薬に関しては、自殺の手段の一つだと思う。</p> <p>オーストラリアでは 16 歳未満の SNS 使用の制限が開始された。その点と自殺の増加は関連があるように感じている。それについてどう考えているか。</p>
保 健 所 (回 答)	<p>SNS と自殺の関連もあるのではないかと考えている。</p> <p>先に報告した女子中学生および女子高校生の自殺増加の背景には、男性に比べて女性の方が月経痛に対する鎮痛剤を購入する機会が多いこともあり、市販薬に対するハードルが低いことが増加の一因と分析されている。</p>
委 員 (意 見)	国が現在進めようとしている OTC 類似薬は、保険適用外で薬局で買えばいいという意見もある。このあたりが問題になってくるところではないかと感じている。
(質 疑)	<p>また、もう一点質問がある。</p> <p>麻痺性貝毒の問題について、一般に知られていないように感じる。時期的や法改正のタイミングもあると思うが、看板設置だけでは注意喚起にならないのではないか。</p>

保 健 所 (回 答)	貝毒の規制値を超えた場合は公表し、ニュースや新聞等で周知している。しかし、有毒プランクトンの少しの増加でたちまち麻痺になるというわけではないので、規制値を超えていない場合は、看板の設置のみで大きくお知らせはしていないのが現状。
委 員 員 (質 疑)	貝毒の症状として下痢は聞いたことあるが、麻痺とはどんな症状か。
保 健 所 (回 答)	<p>確かに、貝毒は下痢性のものはある。麻痺性は、軽い症状の場合、しびれになる。</p> <p>今回報告した事例については、多量に食べなければ、死に至る量ではない。</p> <p>下痢性や麻痺性はプランクトンの種類によるので、何の種類のプランクトンが増えてるかに応じ、検査を経て、公表や看板の設置の対応を決めている。</p>
委 員 員 (質 疑)	<p>2点質問がある。</p> <p>1点目は、少子高齢化に伴う地域医療の課題についてである。八幡浜市では、小児科の減少や出生数の減少に加え、産婦人科がないため里帰り出産等ができない状況にある。出生数の少ない地域では産婦人科の開業が困難であり、市内では実際に閉院した医療機関もある。また、市内には皮膚科も存在しない。</p> <p>今後、保健所として地域医療をどのように推進していくかについて、考えを共有したい。</p> <p>2点目は、地域猫。根深い問題だと感じている。</p> <p>猫が好きな人は給餌するだけで猫の不妊去勢手術はせず、限定した区域で野良猫が増えてしまっている。当市では野良猫の不妊去勢手術に助成しているが、保健所として野良猫対策を強化するような月間を設けるなど、何か野良猫対策や地域猫活動をアピールすることは考えていないか。</p>
保 健 所 (回 答)	<p>産婦人科の不足について重々承知しているが、保健所の力のみで解決は難しい。</p> <p>現在、開催中の県議会で地域医療に関する一般質問があったので、それと関連させて回答する。</p> <p>現在様々な分野で人材不足が叫ばれており、特に医師を中心とする地域医療を支える人材不足が進行化している。医療人材の確保、定着が極めて重要だと県として、認識しているところ。</p> <p>その中で、県としては、愛媛大学や県医師会と連携し、地域枠医師の養成、また退職医師の斡旋等に取り組むとともに、地域医療支援センターと共に、地域医療を担う医師の確保に努めている。</p> <p>また、医師だけでは足らず、看護師の確保対策として、今年度から新たに看護学校の学生確保を支援する取り組みがある。県内医療機関の魅力を紹介するバスツアーの実施や、県外学生等へ応援金の支給などに取り組み、確保、定着に繋げている。</p>

	<p>また現在、医療機関に従事者の軽減を図るため、実情に応じた医療DXの導入を推進するほか、医療勤務環境改善支援センター、県看護協会による処遇改善を含めた医療機関の助言、もしくは院内保健所の運営補助によって、就労環境の改善を促進し、働きやすさの向上を図っている。</p> <p>県知事の言葉を借りるなら、チーム愛媛で取り組んでまいりますので、各市町、関係団体の皆様には、引き続き、ご理解とご協力をお願いしたい。</p>
保 健 所 (回 答)	<p>野良猫への給餌者が判明した場合には、「不妊去勢手術」「トイレの設置」「餌場の管理」を指導しているが、複数回指導を重ねても簡単には解決しない問題と認識している。</p> <p>アピールしてほしいとのことであったが、県庁でも来年度には新規事業を実施すると聞いている。当課では、猫への給餌には、それに伴う責任が発生する旨の普及・啓発を進めて行きたいと考えている。</p>
委 員 員 (意見・要望)	<p>医師の体制について、従来は医師が常勤で3名いないと今の働き方改革の基準を満たさず、産科の開業は難しいとされていた。しかし現在は、常勤医師2名に加え、派遣医師1名がいれば開業可能と聞いている。八幡浜市内には常勤医師が1名配置されているため、もう少しで体制が整うのではないかという思惑もある。また、助産師も必要になるため、市内の看護師の中から助産師試験を受けられるようにする形で今努力を進めている。</p> <p>産科は、出生数、症例数の少ない不採算部門ではあるが、前向きに取り組んでいるので、必要な医師数等の明確な目標が欲しいところ。</p>
保 健 所 (回 答)	保健所としても県庁に働きかけを行うため、引き続き協力をお願いしたい。
委 員 員 (意 見)	市立八幡浜総合病院には、非常に優秀な医師は継続して配置されているため、ぜひとも産科を実現できればと思う。